



## はなちゃん ありがとう

グループホーム花みずき スタッフ 井上 公子

我が家には“はな”という12才になる愛犬がいました。以前の社宅住まいでは飼えず、マンションに移るとすぐに大の犬嫌いだった主人を説き伏せ、半ば強引に飼い始めました。仔犬のはなが我が家に来て3日目「一匹で寝かせるのはかわいそうだ！」とあれほど犬嫌いを公言していた主人が自分の布団で添い寝を始めました。以来12年間、主人が居る日は必ず二人(?)で寝、私はカヤの外。私が飼い始めたのに……。

子供達が巣立ち、夫婦二人と一匹娘の生活となりました。私達は共に夜勤の日や、散歩もままならない日も多かったのですが、穏やかで病気もすることなく、本当にとてもかわいい自慢の娘で、楽しい時も悲しい時も常に私達に寄り添い支えてくれました。

はなも私も共に年を取り、そろそろ仕事を辞めて、はなとの生活を楽もうと心に決めた矢先の5月のある日、前ぶれもなく急に動けなくなり、病院へ行きましたが、原因不明。翌日体調が悪化、別の病院へ行くと「残念ですが、今晚もたないでしょう」と。主人は夜勤でおらず、一晩中はなを抱きしめ泣き続けました。大好きな主人の帰りを待って、はなはあつという間に天国へ行ってしまうしました。

寂しい思いばかりさせてしまった、早く病気に気付いてやれなかった、等々何を思っても後悔して涙の日々を送っていたお盆過ぎ、買い物から帰ると灰色の小鳥が家の中で鳴いていました。家に居た主人によると「お前が窓を開けたままにして出かけた間に家に入って来た」とのこと。マンション中尋ね、写真付の張り紙をしても飼い主が現れず“はな”と同じ灰色をした文鳥は“そら”と名前を付け家族となりました。

そらはなぜか私にしか近づかず、私が家に居ると「出して〜!!」と言わんばかりに叫び続け、かごから出すと私から片時も離れず腕や頭や肩をツンツン嘴で突っつきまくり、穏やかだったはなとは正反対。「痛い!こら!おバカ!」と叱る毎日。でもそのおかげか徐々に元気になってきました。ひょっとしたら、落ち込んでいる私に元気と気合いを入れる為に、はなが姿を変えて来てくれたのかも……と思えるようになりました。

グループホーム花みずきのスタッフの平均年齢と平均体重をググッとアップさせつつ、そらに嘴で突かれながら、今日も笑顔で元気にお仕事しています。はなちゃん、ありがとう。天国で見ててね。お母さんはもう大丈夫だよ。